

平成30年度第2回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日 時 平成31年3月20日(水) 14:00～15:15
- 2 場 所 徳島市中央公民館 3階 302会議室
- 3 出席者 委員 委員長 三木スズエ(家庭文庫代表)
副委員長 新 孝一(四国大学 日本文学科准教授)
委員 杉本 千恵(国府中学校)
吉成 正一(市文化協会会長)
諏訪 公子(市中央公民館運営審議会委員)
玉野 勝彦(市議会文教厚生委員会委員長)
板東 恵子(市婦人連絡協議会会長)
佐藤 恭規(徳島市・名東郡PTA連合会会長)
吉本 勝彦(徳島大学附属図書館館長)
- 事務局 市教委(社会教育課) 建島課長補佐、山口係長、堤主査
図書館(指定管理者) 國金館長、廣澤副館長、勝浦副館長、佐野副館長、
岡本サブチーフ、本社営業渡辺

4 議 題

(1) 平成30年度の活動状況について

館長より説明

《質疑応答①》

委員 インターネットサービスは導入しているのか。また、それはどういったものなのか。

事務局 導入している。インターネット・スマートフォンから読みたい本の予約や蔵書検索ができる。

委員 インターネットサービスの利用は多いか。

事務局 利用は多い。年配の方は電話での予約利用も多い。

委員 インターネットサービスについて図書館のホームページに載っているか。

事務局 掲載している。

《質疑応答②》

委員 電子図書館の閲覧回数と貸出冊数の統計が出ているが、閲覧回数とはどういうことか。

事務局 貸出しなくても閲覧可能な電子書籍があるため、それらの電子書籍を閲覧した回数である。貸出回数は貸出手続きが必要な電子書籍の貸出回数となっている。貸出されるより、閲覧のみの方が圧倒的に多く、実際に貸出されているのは1,000冊弱である。

《質疑応答③》

委員 レファレンスの年間受付件数はどれくらいか。

事務局 約 700 件である。様々な内容のレファレンスを受付けるが、書架への案内はレファレンスの回数に含んでいない。調べものについての問合せ「〇〇について調べているが、〇〇に関する本はありますか。」などをカウントしている。

《質疑応答④》

委員 徳島大学付属図書館との連携についてはどうすすめているのか。

事務局 徳島大学付属図書館と年 2 回運営会議を開催し、年間の計画を立てている。

委員 市婦人連絡協議会は月 1 回理事会を開催しているため、イベントのチラシをもらえれば、図書館まで行かなくても歯周病などの興味・関心のあるイベントを高齢者にお知らせができる機会になるため、ぜひ、活用してもらいたい。

事務局 理事会の際にお配りいただけるように準備したい。

委員 イベントについては広報とくしまにも掲載されている。

事務局 広報とくしまに加え、図書館だよりもイベント一覧を掲載しているので、社会教育課を通じてお渡しできたらと思う。

委員 歯周病のような内容のイベントが開催されていることに感心した。

事務局 今までにも糖尿病や認知症、検診結果の見方のイベントも開催した。

(2) 平成 31 年度の事業計画 (案) について

館長より説明

《質疑応答①》

委員 電子図書館のリクエストサービスは受付けているのか。

事務局 電子図書館で貸出ができる電子書籍は、一般に流通している書籍とは違うのでリクエストは現状受け付けてない。

委員 未購入の電子書籍の一覧を公開し、購入希望を募ってはどうか。

事務局 電子書籍に関して、図鑑のコンテンツを購入したので、小学校で活用していただくと良いのではないかと考えている。また、読み上げ機能を障がい者サービスに活用したいと考えているが、使っていただけるサービスがあることをどううまく広報していくかが課題である。

委員 身近な視覚障がいの方も、その周りの方も含め、電子図書館の存在は知らないと言っていた。

《質疑応答②》

委員 学校図書館相談窓口とはどのようなことをしているのか。

事務局 学校図書館を運営するうえでお困り事があれば、図書館にご相談いただく窓口を開設している。今年、昭和小学校から本の分類や並べ方の相談があった。今年度図書館にあった相談はこの1件だけであったが、各学校からの館内見学は非常に多いので、その際に分類や本の並べ方のご説明はしている。学校図書館と密な連携を目指し、窓口を設けることでお役に立てるのではないかと昨年開設している。

委員 学校側の問題もあると思うが、学校図書館の貸出時間が短いので、本を読む機会が増えるように、時間の使い方等を図書館職員がアドバイスしてはどうか。

委員 学校側の意見としては、圧倒的な人員不足により、図書室に教員が常駐するのは難しい。昼休みも忙しく、給食の時間も指導の時間なので時間を作ることはできない。生徒の図書委員もいるが、必ず教員がついていないと活動は難しい。

委員 以前は人員が不足していなかったのか。

委員 子どもの数も教員の数も多かったためできていた。現状は休憩する時間もままならないほど余裕のない状態である。

委員 法律により司書教諭（12学級以上の各学校に設置義務がある）の設置は、徳島市内の小・中・高校では約半数しか該当しない。それを補完するために学校司書（事務員）を設置するように文部科学省から予算が出ているが、都道府県別にみても特に徳島県は活用できていない。その中でもいくつかの市町村では、小中学校には学校司書（非常勤雇用）、もしくは学校サポーターを配置しつつある。小・中学校の図書館に学校司書（正規雇用）は、徳島県内にはまだどこにも配置されていない。高校に関して、雇用形態は別にして、全ての高校に原則として学校司書が配置されているが、専任の事例はない。学校図書館の中に司書教諭がおり、その司書教諭をサポートするための学校司書を配置するのが理想だが、徳島県の現状を考えると到底実現できそうにない。

委員 地域に学校図書館を開放してはどうかという意見があがっているが、現状が難しいのであれば、公共図書館の力を借りるという方法もあるのではないか。

委員 学校としては学校図書館の開放以外に学年文庫の設置やビブリオバトルを校内で実施している。学校図書館を開放できる時間は少ないが、別の部分で工夫している。

委員 加茂名中学校も夏休みに図書室を開放していたが、やはり、教員が必ず1名引率していた。教員の手間を考えると大変なことなので、公共図書館が手伝えることがあればやっていただけると良いと思う。なかなか難しい問題だとは思う。

《質疑応答③》

委員 イベントをたくさん実施しているが、1つ1つの評価（P D C A）は具体的にどんなことをしているのか。

事務局 参加された方の声を知るためにアンケートを実施し、次回に活かしている。また、指定管理者T R Cが全国的に展開しているので全国の図書館から情報を集め、実施の参考にもしている。

事務局 内部・外部用の報告書をスタッフと作成し、内部用は、スタッフの振り返りと次回に活かせる材料にしている。外部用はホームページへ広報も兼ねて掲載している。

委員 図書館ホームページの報告書を見た方からの声や意見はあるのか。

事務局 イベントの連携先からは評価をいただいている。また、他の図書館から詳細を教えて欲しいとの声もある。

委員 できる限り広報の協力をしたいので、婦人会にぜひ、教えてほしい。

事務局 図書館としても必要な方に必要な情報を発信できているかが課題なので、窓口を広げるためにもぜひお願いしたい。
また、来年度は障がい者の方へのご案内として、徳島県障がい者交流プラザと連携を予定している。

(3) その他

《質疑応答①》

事務局 現在、図書館ラウンジのみ川の流れる音・鳥のさえずりの音を流しているが、全国的にも館内でB G Mを流している図書館が増えており、当館でも4月から館内全体に小音のB G Mを流す予定である。

委員 おはなしのへやでおはなし会を実施しているが、不必要な場合には、B G Mを消せるのか。

事務局 スイッチで切り替えが可能だと思うが、確認しておく。